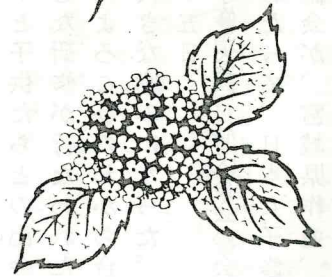


仙台司教区

教区事務所だより

(第 2 号)
昭和 5 1 年 7 月 1 日



七月の司教様の日程

(六月十五日現在判明分)

二日 日本カトリック児童収容施設協会
全国大会全体会に出席

三日 結婚講座講義

(元寺小路教会信徒館)

四日 一本杉教会訪問(二十周年記念)

九日 会津若松教会壮年会懇談会に出席

十日 ドミニコ会雪の聖母修道院訪問

十一日 会津若松教会堅信

十二日 司教評議會

十六日 財団法人スベルマン病院理事会

二十日 カトリック児童福祉会理事会

◎司教様に

お会いになりたい方のために

五月十六日に、東仙台の司教館にお移りになった司教様は、いつでも、信者、

聖職者にお会いになりますが、東仙台の司教館は東に離れていますので、人々の便宜をお考え下さって、出張、会議等の用事のない限り、原則として毎週、月、水、金曜日は仙台市内中心部にある教区事務所に、ご出勤になります。左記の時間に事務所執務なさいますので、ご利用下さい。

月曜日 午前十時から午後五時まで

水曜日 午後二時から五時まで

金曜日

寿庵祭

盛会裡に終わる



五月二十三日朝、水沢の後藤寿庵廟の前には、約三五〇名の人々が集まっていた。岩手県南、宮城県北の信徒を中心に仙台その他から集まった信徒と村の人々

の群れだった。

切支丹時代、迫害にもめげず信仰を守り通した寿庵の遺徳をしのび、ミサにあずかるために集まった人々である。寿庵は、キリスト教信仰と共に、西欧の技術もとり入れ、寿庵塚を築くのに成功した。その水利の恵みは、今に至るまでこの土地の人々を潤している。人々はこの徳を慕い、毎年農耕にちなむ祭りを祝ってきたが、戦後、岩手県にベトレヘム会が入るに及んで、毎年代わってミサが献げられるようになった。

この日も、水沢市長・高橋忠八氏をはじめ、多くの村の人々も参列し、佐藤司教や八名の司祭による共同ミサにあずかった。

ミサ後、円筒分水や胆沢川上流の水の取り入れ口などを見学し、お互いの親睦と交わりが深められた。

(一関教会機関紙参照)

人事往来

○シユトレーベル師(大船渡教会主任)
シユマツヘル師(釜石教会主任)

休暇のため、それぞれ五月にスイスに帰国。五か月の休養の後、帰日の予定。留守中は、志家本部、遠野教会主任が、

それぞれ司牧を代行する。

○ヨハネ・シュルテンベルグ師（ベトレヘム会）スイスにおける休暇を終えて、五月二十六日盛岡帰着。ベトレヘム宣教会本部に落ち着いた。

○マルコ・アントーニオ師（グアダルーペ会）石神井の神学校で神学課程の勉学を終了。故国メキシコで叙階されて、帰日。会津地方、喜多方教会で宣教、司牧に従っている。

○三浦平三師（教区司祭団）

カトリック新聞社、常務理事の同氏は女子修道会総長管区長総会取材のため来仙。六月五日帰京した。

○クルノワイエ師（ケベック会、八木山教会主任）六月十五日、休暇のため羽田発カナダへ帰国。九月十五日帰日の予定。

◎ 講座

「幸せな結婚と実りある家庭づくりのための講座」が、六月十九日、二十六日、

七月三日、十日の四日間、十八時から二十時まで、元寺小路教会信徒館で、八名の司祭、医師、心理学者の講師により開かれていた。信者、未信者、既婚、未婚を問わず、どなたでも参加出来る。

会費 全講座を通して一人五百円



ミニ情報

●五月二十四日（司教杯白百合学園に）今年第十回目の三校（聖ドミニコ学園、仙台白百合学園、聖ウルスラ学園の各高等学校）定期戦は、五月二十四日、宮城県スポーツ・センターにおいて、華やかに挙行された。

第十回記念大会とあって、新教区長佐藤司教から、新しい司教杯が贈られ闘志は一層盛り上がった。今年の優勝校は仙台白百合学園で、司教杯を獲得。古い司教杯も、永久杯として同校に贈られた。

●五月三十日（岩手・教会学校研修会）岩手県下の教会学校担当者（伝道婦大学生、母親、幼稚園教諭等十五名出席）の研修会が、ベトレヘム会本部で開かれた。テーマは「子供たちに福音を伝える」。指導者の手本、模範によるキリストと子供たちとの出会いについて、熱心な研修が行なわれた。指導上の悩み、よろこびのわかち合いは、お互いに大きな励みになった。

●六月一日―五日

（日本女子修道会総長管区長会総会）

五日間にわたって、日本女子修道会総長管区長総会が、宮城県作並、仙台Y

MCA作並国際センターで開かれた。全国六二修道会の代表が一堂に会して熱心な討議、研修が行なわれたが、東北で、また仙台司教区内で、この種の全国会議が行なわれたのは、初めてのことである。

●六月八日（佐藤司教 首相官邸に）カトリック児童福祉会理事長も兼ねている佐藤司教は、同会常務理事本間神父と共に上京。八日午後一時四十分永田町の首相官邸に赴いて、国際婦人福祉協会から贈られた金参百万円を受領した。これは、同会から特別養護老人ホーム暁星園（昭和五十一年開園。施設長は川井啓師）のベッド五十台購入のために贈られたものである。

●六月十二日（教皇掩祝 伝達）

日本カトリック書人協会は、毎年全国書道展を催して、カトリック系学校生徒の書道向上に貢献してきたが、この程、発足十周年を迎え、在仙の同会副会長菊田翠谷（元寺小路教会信者）、理事高橋素光（同）、理事加藤豊子（同）の三氏に、教皇掩祝がおくられ、十二日、教区事務所、佐藤司教から、教皇大使の添え状と共に、それぞれ三氏に伝達された。



●六月十四日(仙台教区女子修道会連盟)
 六月十四日午後一時半から、仙台市一本杉の聖ウルスラ修道院で、昭和51年度院長会が開かれ、出席者11名によって、左の議題が取り扱われた。

1. 昭和50年度事業報告及び会計報告
2. 昭和51年度事業計画及び予算案・会費検討
3. 役員改選 旧会長 Sr 松森 新会長 Sr 佐々木 (ドミニコ会北仙台院長)

◎ 高齢司祭 福祉基金

発足(六月一日)



現在仙台司教区には、八四名の司祭が働いている。そして、その平均年齢は、年毎に高まっている。

教区司祭団	29名	平均年齢	五十歳
ドミニコ会	11名	平均年齢	五十四歳
ベトレム会	16名	平均年齢	五十五歳
ケベック会	21名	平均年齢	四十九歳
グアダルペ会	7名	平均年齢	三十八歳

あと十年もたてば、七十歳を越える司祭は十三名、六十歳以上では四五名にもなる。
 年老いて現職を離れる司祭の老後の保

障は、宣教会、修道会には何らかの方策はあるにしても、邦人司祭には皆無だった。やっと昨年十一月十日司祭評議会が、今年五月三日には司牧評議会が、高齢司祭福祉基金規約を承認し、六月一日付で発足することになった。

現在の基金総額は、一金壱千五拾四万参千円で(六月三日現在)、まだ微々たるものであるが、ベトレム会の大口の寄付金をはじめ、個人の寄附献金によって、徐々に増加しつつある。

この基金は、五名の司祭が委員会を構成し運営に当たることになっている。司祭が老後の心配なく、全心を司牧・布教に打ちこめるよう、あらゆる善意の人々の心温かい拠金が望まれている。

拠金にご協力下さる方は、どうぞ左記宛にお送り下さい。

- 仙台市本町一丁目2番12号
- カトリック仙台司教区事務所
- 高齢司祭厚生福祉基金係り

銀行振込 東邦銀行仙台支店

普通預金口座八七〇七六

高齢司祭厚生福祉基金

代表 佐藤千敬

郵便振替

「仙台 四三五六 宗教法人カトリック仙台司教区高齢

司祭厚生福祉基金」

感謝

去る四月十九日、教区事務所一枚の郵便振替振込通知書が

舞い込んだ。五十万。 「福祉事業のためにお使い下さい」とある。篤志の方はどなたかと振込人氏名を見ると、「青森市本町教会信者青井」とあった。受領書を教会宛にでも出しましょうかと考えていると、また一枚のはがきが舞い込んだ。

「：：その中十万円は、大湊教会建設資金として下さい：：青井(仮名)さんの代理です：：」

青井さんは匿名人だった！
 「施しをする時には、右の手でしていることを左の手にさえ知らせないようにしなさい」(マテオ6・3)。「自分の前にラッパをなら」すなら「そういう人は既に報いを受けている」(マテオ6・2)。「天に宝を積みなさい」(マテオ6・20)

イエズス様の御言葉を地でいっている青井さんの志が、一番よく満たされる方法は、と、いま係は頭をしぼっている。

「かくれたことを御覧に

なる父が」(マテオ6・4)

青井さんに「むくいて下さい」

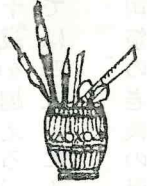
(6・4) いますように。



◎ 事務連絡

会計報告年度に

ご注意を！



現在、教区事務所から出されている各種会計報告（教区本部、特別献金、一粒会等）の会計年度は、その年の四月に始まり、翌年三月に終わっています。

今年も、四月と五月に、いくつかの五十年年度の会計報告がなされましたが、何人かの神父様方から、納めた献金が報告には記載されていなかったと、大変きついお叱りをうけました。調べてみますと五十年四月に納められており、報告提出の日付が五月になっていたので、当然記載されていなければならないとお考えになったようでした。しかし「五十年年度会計報告」は、五十年四月から五十一年三月までの間に取り扱った収支の報告がされますので、たとえ五十年年度の献金であっても、そして報告提出の日付が納入された日以後の日付で報告されたとしても、五十一年四月以降に納められたものはすべて、五十一年度の報告に載ることになります。

この点ご理解、ご了承下さるよう、お願い致します。

広報 献金 集計 状況

（昭和五十一年六月十六日現在）

一金式拾式万五千九百九拾壹円也

その内訳は、

- 青森地区 四六八六一円
- 岩手地区 六三五五一円
- 宮城地区 五二二三八円
- 福島地区 五五、三四一円
- 修道会関係 八、〇〇〇円

広報の日に



広報献金のほか、小教区独自で次のことを行なった。

- 大河原カトリック教会では、信徒が
- 西仙台カトリック教会「世話人となり
- カトリック出版物の委託（出版パウロ
- 会から）をうけ、教会内で展示即売を
- し、出版物の活用につとめた。
- 塩釜カトリック教会では、九時半のミ
- サ後、「宣教」というテーマのもとに
- 広報の日のつどいを行なった。

○元寺小路教会では、当教会出身の三浦平三師が来仙。二回の説教で広報の意義を説き、ミサ後、日本の教会の唯一の

機関紙であるカトリック新聞の購読予約をうけつけて、帰京した。以上、小さな動きであったが、今後、教区全体の動きへと広がっていくことが期待される。

【編集後記】

「教区事務所だより」第2号をお届け致します。この「たより」は、教区内の出来事をお互いに知らせ合うのも、その目的の一つになっています。第1号にこたえて、いろいろの教会から機関紙、お知らせ、レポートなどをお寄せ頂き、編集部では、皆さまの関心の深さと、協力精神に感激しています。小教区からお寄せ頂いたものが、そのまま記事にはなりません。ヒントを与え、情報調査の資料になり、大いに利用させて頂いています。今後もしよろしくご協力をお願いします。

又、新聞等でご存じのイタリア北部の大地震による災害援助金を、中央協議会内カリタスジャパンで取り扱っていますので、有志のご協力をお願いします。ご送金は当事務所又は中央協議会へ。

仙台司教区教区事務所だより第2号

昭和五十一年七月一日発行

発行所 仙台司教区事務所

〒980 仙台市本町一丁目2番12号

TEL 0222 7371